Ｄ－テーブル総評

ジャッジ：道端　広部

《議論の流れ》

0.　ナロー

ナローイングは鵜殿によってはじめられた。O/Ｐに全員が立候補し、立候補者それぞれにした「ＮＦＣ、ＳＯＬが立証されることを担保するのか？」という鵜殿の質問によって、どのO/ＰもＮＦＣは担保されているがＳＯＬは議論の余地があることのイメージが共有された。多数決の結果、大和田がO/Ｐに選出された。

1.　ASQ

Probrem,Harm,SOH ではＡＤがどのようなものであるかがメンバーの質問によって明確化された。Cause エリアで杉野谷がＤＡのためのドナーとドナーの家族の意思に関するA/Wのコンセンサスをとりたいといった要望に対し、大和田が「そのA/Wはマンデートから起こりうるものなのでマンデートエリアでコンセンサスをとらないか」という提案をし、受け入れられた。ＮＦＣは質問反論なく立証し、マンデートエリアの前で西野が「ＳＱにもドナーの意思が無視されているケースがある」という主張が出されたが混乱を未然に防ぎたいという西野の意思がテーブルに浸透せず、大和田の提案により終息した。

2.　APA

マンデートエリアでは先に述べた杉野谷のコンセンサスをとることができた。ＳＯＬエリアでは梅田・宮本・増谷がアイディアを提示し、鵜殿の提案により反論の目的が stop discussion である宮本のアーギュメントの検証から始まった。宮本の、「国家による理由なき殺人は許されない」という意見に対する 40 分の質疑応答の結果、鵜殿の「通常の comparison の前に患者とドナーのＴＧ comparison をすることで国民を殺してもよい理由を確認し、もし患者＞ドナーが立証されたら実行性を認め通常の comparison に入ろう」という提案で終息した。次に増谷の「T/Ｐのためには①憲法を改定②死刑囚をドナーに③国と国民の相互扶助の成立、このどれかを達成しなければならない。」という意見の検証に移り、大和田が③に反論し「東日本大震災における住民の住居強制立ち退きにおいて、住民から“補助金が足りない”という不満が起こっていた。」という情報により増谷が例外を認め、終息した。残り 5 分で梅田がアイディアを棄却し、大和田がＡＤを立証した。ＤＡは宮本・鵜殿からドナーについてのアイディアが提示され、質疑応答の最中で議論が終わっ

た。
選定理由
１　大和田　明治学院２
ＯＰとしてテーブルに唯一立論されたアイデアであるＡＤを残したこと、また常にテーブルを進める意思を持ちリフュートやＳを行っていたことを評価した。しかしプランサイドでは話がなかなか進まなかったり、大和田の意図と違う方向に流れることもあり介入が遮り気味になったり雑になることもあった。自分の思い通りにいかないときや、テーブルが停滞しているときこそ落ち着いた介入が有効になると思う。どうすれば人を引き付けて話せるか、という点を改善しアッセンも頑張ってほしい。

２　鵜殿　早稲田２
大和田と同じく常にテーブルを進める意思を持ちＳを行っていたことを評価した。
やろうとしていることはとてもよかったしＳも通ってはいたのだがそれに必要な情報はすべてが鵜殿によって引き出されたものではなかったように思う。テーブルを一人でも動かせるようになるためにもＳを思いついたなら通すために必要な理由やそれをアイデアプレゼンターから引き出す精度を上げていってほしい。

３　増谷　早稲田３
他者の話に関してはQ，Ｃ適宜情報の引き出し、浸透を助け、またＳＯＬにおいてアイデアを提示した。しかし前者は上２名も行っていたことであり、提示したアイデアも t/p or not　へのつながりがテーブルとしては見えにくく exception によってきれてしまったためこの順位とした。自身のアイデアがどう t/p or not につながっていくのか、テーブルメンバーとどう議論していきたいのかをしっかり伝えられれば違った使われ方で結論を得られたかもしれない。発想は人にはないものがあると思うので、伝え方を工夫していってほしい。

４　杉野谷　青山２
前半は適宜ＱＣを行いテーブルに貢献していた。しかし後半になるにつれ介入が限定的になっていたためこの順位とした。２年生で上位テーブルに食い込むだけのポテンシャルは随所に見受けられたため３時間集中を切らさず常にテーブルのために自分のなかの最善を尽くしてがんばっていってほしい。

５　梅田　法市３
前半は適宜ＱＣを行いテーブルに貢献していたが上位と比べると質量ともに劣っていると判断した。
またアイデアはあったものの提示、検証されることはなかったのでこの順位とした。自分の介入からテーブルに影響をどうやったら残せるかを工夫していってほしい。

６　宮本　立教３
プランサイドでアイデアを展開するも浸透に時間がかかり最終的に流され検証されうるところまで到達で

きなかったこと、またそれ以外の介入が限定的であったことからこの順位とした。話したいことを話すためにもそこまでテーブルを動かす力を伸ばしていってほしい。

７　西野２

介入が上位に比べると限定的であったことや混乱を防ごうとして逆に停滞を招いてしまったことからこの順位とした。リーズニングにおいて具体例などが欠けていたように思う。なぜじぶんがその主張をしているか、なんとなくではなく言語化しテーブルメンバー全員に１００％伝えられる力をつけていってほしい。

春セミお疲れ様でした！今回のテーブルに限らず今年のテーブル全てに言えることかもしれませんが、『議論すること』をディスカッションセクションの一員としてもう一度考えてみてくださいね。三年生はアッセンブリーが最後の大会となってしまいます。残り少ない時間でぜひ自分のやりたいディスカッションを《主体的に展開》させられるような、魅力あるディスカッサントになってほしいです。二年生はこのテーブルに入れたことに満足せず、精進してください。今年入ってくる一年生に『ディスセク楽しいよ！』『おもしろいよ！』という言葉を心の底からかけて欲しいし、そのためにも受け身ではだめです。自分の目標を高く持って、自分がテーブルを面白くする気持ちで努力を続けてくださいね。

アッセンブリー期待しています！